

多摩ニュータウンの新たな再生方針検討委員会（第1回） 議事要旨

- 日 時：令和5年10月24日（火） 9時30分～11時00分
- 場 所：東京都庁第二本庁舎 10階201・202会議室
- 議 事：
 - 1 委員会の目的、委員紹介
 - 2 多摩ニュータウンの新たな再生方針について
 - ・策定の目的、位置づけ
 - ・骨子のイメージ
 - ・多摩ニュータウンの現状と課題
 - ・今後の予定
 - 3 その他
- 検討委員会での主な意見

《団地等の老朽化》

- ・ 新しい建物に全て作り直すことは経済的に難しい。リノベーションをシステムティックにやると良い。
- ・ 団地再生には多くの課題（コミュニティの継続、近隣センターの再生、南多摩尾根幹線沿道の土地利用転換、事業性との両立など）があるため取組に時間を要する。

《環境防災》

- ・ 公園、農園等が、健康や交流の場として、魅力的な資産である。
- ・ 「持続可能な開発」やカーボンニュートラルを意識したほうが良い。
- ・ 地震リスクが低いのであれば、データやエネルギーの拠点になることも想定できる。
- ・ 地震以外の災害リスクについても現況に反映させたほうが良い。

《産業・業務機能等の集積》

- ・ 職住近接の新しい生活様式を目指すなら、産業をはじめ様々な基盤投資を行うべきである。
- ・ どういった業務地区の集積を目指していくのか、方向付けをしたほうが良い
- ・ リニアの開業が予定され、MICE誘致・開催の期待が高まる。住宅系だけでなく、業務系の導入が必要である。
- ・ もともとのベッドタウン的な理念から作られたまちだが、今後は、まちの中で雇用を生み、にぎわいを創出し、そこに新たに若い人に住んでもらうということが重要になると思われる。その意味で、南多摩尾根幹線沿道の土地活用に力を入れていく必要がある。
- ・ 大学生は昼間人口の核となることから、学生数の維持は重要である。

《デジタル》

- ・ 2040 年までには技術の進歩も大きいと予想され、車も空を飛んでいるかもしれない。多様なモビリティが走り回る姿も想像し、都市構造を検討できると良い。
- ・ バスの運転士など人材確保の課題に対し、新技術で対応できることもある。

《その他》

- ・ 近年の動きを十分に踏まえて地域の課題を取り込み、対応策を提示できると良い。
- ・ 東京都には、各関係機関の取組を支援することに加え、広域的な視点で新たな技術も捉えてモデル的に取り入れていくといった役割が求められていると思う。
- ・ 将来像、まちづくりの方向性、取組などは、総合的なものになりすぎず、メリハリをつけてまとめていけると良い。